

**製品名: C3G (リン酸化 Tyr504) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04343**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	120kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RAPGEF1
別名	RAPGEF1; GRF2; Rap guanine nucleotide exchange factor 1; CRK SH3-binding GNRP; Guanine nucleotide-releasing factor 2; Protein C3G
遺伝子 ID	2889.0
SwissProt ID	Q13905
免疫原	抗血清は、ヒト RapGEF1 の Tyr504 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 470-519

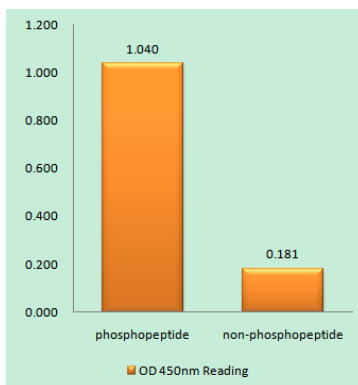
**背景**

この遺伝子はヒトグアニンヌクレオチド交換因子をコードしています。CRKのSH3ドメインに結合し、RasファミリーGTPaseの複数のメンバーを活性化することにより、CRKからのシグナルを伝達します。このシグナル伝達カスケードは、アポトーシス、インテグリンを介したシグナル伝達、および細胞形質転換に関与している可能性があります。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか報告されていますが、一部のバリエーションの全長は未だ解明されていません。[RefSeq提供、2008年7月]、機能: CRKのSH3ドメインおよびGRB2/ASHに結合するグアニンヌクレオチド放出タンパク質。CRKからのシグナルを伝達し、RASを活性化する。類似性: N末端Ras-GEFドメインを1つ含む。類似性: Ras-GEFドメインを1つ含む。サブユニット: CRKのSH3結合部位を介してCRKと相互作用する。組織特異性: 成体および胎児において普遍的に発現する。成体では骨格筋と胎盤、胎児では脳と心臓で高い発現を示す。成体および胎児では肝臓での発現レベルが低い。

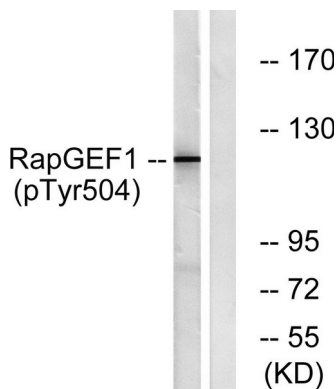
## 研究分野

アクチンダイナミクスの制御; AMPK

## 画像データ



RapGEF1 (リン酸化Tyr504) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化ELISA)



Na<sub>3</sub>VO<sub>4</sub> 0.3nM 40°処理したHepG2細胞ライセートのRapGEF1 (リン酸化Tyr504) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。